



THE FUKUOKA  
ASIAN CULTURAL PRIZES

1993年（第4回）  
福岡アジア文化賞

THE 4th  
FUKUOKA ASIAN CULTURAL PRIZES  
1993

1993年（第4回）受賞者

大賞

GRAND PRIZE

氏名  
フエイ シャオ トン  
費 孝 通

Name: FEI Xiaotong

生年月日  
1910年11月2日（82歳）

Date of Birth: November 2, 1910 (Age: 82)

国籍  
中華人民共和国

Citizenship: People's Republic of China



## プロフィール

江蘇省呉江県に生まれた費孝通氏は、はじめは医学を志したが、しだいに個人の病よりも社会の病を治療すべきだと考えるようになる。燕京大学、清華大学大学院で社会学・人類学を学び、書物中心の学問から実地調査による中国社会研究を志すようになった同氏は、故郷での農村調査後、ロンドン大学に留学し、社会人類学の父マリノフスキー教授に師事。のちに、『中国の農民生活』（1939年）を著し、一躍国際的評価を得た。中国農村研究の古典ともいべきこの書は、戦前の日本でも訳書が出され、多くの影響を与えた。新中国成立後、民族学者として少数民族の調査、指導にあたるが、反右派闘争、文化大革命とあいつぐ歴史の変動の中で、研究活動が20年近く阻害された。しかし、文革終焉後、復帰、調査・研究活動を再開し、中国社会学会、中国社会科学院社会学研究所の設立に貢献するなど、民族学の振興とともに社会学の再興に心血を注いできた。

社会学・人類学の方法を欧米に学んだ費氏は、それを中国の伝統文化、地域的多様性に適合させて独自の方法論を創出。半世紀にわたり中国社会の変化を世界に紹介し、もっとも著名な中国の社会学者・社会人類学者として評価されている。学術活動が中国社会の発展につながるという若い日からの信念を一貫させ、中国の現代化、開発問題にも尽力。80歳を超える現在も精力的に実地調査を行い、中央民族学院教授、北京大学教授、中国社会学会名誉会長等の要職にあって、名実ともに学界の中心として今なお活動中である。

### 主な著作

*Peasant Life in China*, ロンドン, 1939

(邦訳『支那の農民生活』1939), (『江村経済』淮陰(江蘇省), 1986)

『禄村農田』重慶, 1943     *Earthbound China*, シカゴ, 1945

『生育制度』上海, 1947 (邦訳1985)     『郷土中国』上海, 1947

『民族与社会』北京, 1981     *Toward a People's Anthropology*, 北京, 1981

*Chinese Village Close-up*, 北京, 1983 (邦訳『中国農村の細密画』1985)

『小城镇大問題』(編著) 淮陰(江蘇省), 1984

『小城镇四記』北京, 1985 (邦訳『江南農村の工業化』1988)

*Rural Development in China*, シカゴ, 1989     『社会学在成長』天津, 1990

## 贈賞理由

費孝通氏は、現代中国を代表する最も著名な社会学・人類学者であり、その業績は国際的にも極めて高い評価を受けている。

費氏は燕京大学を卒業して以来、今日までの50年間、中国における社会学及び社会人類学の発展に大きく寄与してきた。燕京大学では、当時アメリカから帰国直後の呉文藻が機能主義理論によるコミュニティ・スタディを提唱しており、そこへ招聘されてきたシカゴ社会学派のR. パークや機能主義者ラドクリフ＝ブラウンの影響も受けた費氏は、実証的な現地調査の重要性を理解することとなった。ロンドン大学に留学した同氏は、高名な人類学者B. マリノフスキーやR. ファースらに直接指導を受け、そこで著した博士論文『中国の農民生活』は、一躍、国際的にも脚光を浴びた。

留学から帰国後、費氏は雲南省昆明において農村調査に従事したが、抗日戦争と国民党反動派による知識人への迫害もあって、研究条件はきわめて劣悪であった。同氏が著した『緑村農田』は、そのような状況の中で行われた実地調査に基づいたものであるが、土地問題に関する機能主義的分析に止まらず、比較社会学的方法論に歴史的視点を導入するなど、その後のコミュニティ研究の理論構築に貢献するところ大となった。

社会学者としての費氏は、単に社会現象の分析と理論化に寄与するばかりでなく、その理論に基づいて、中国国内における少数民族問題、地方小都市における経済的社会的開発に関する諸問題など、現代中国が抱えている極めて現実的な社会問題の解決のために貢献してきた。1950年代後半から約20年間は、中国のアカデミズムにとってまことに困難な時代であったが、その後、同氏はこの空白を埋め、名実ともに社会学、社会人類学の指導者として後進の指導に当たるとともに、現在も理論的実証的研究に日夜従事するなど、その役割は、今後一層重要になろうとしている。

このように費孝通氏の功績は、中国の社会学・人類学の発展に大きな貢献を果たしたばかりでなく、アジア文化とその研究の意義を広く世界に示したと評価できるものであり、まさしく「福岡アジア文化賞一大賞」に相応しい業績といえる。

学術研究賞・国際部門

ACADEMIC PRIZE: INTERNATIONAL

氏 名

Name: Ungku Abdul AZIZ

ウンク・A・アジズ

生年月日

Date of Birth: January 28, 1922 (Age: 71)

1922年 1月28日 (71歳)

Citizenship: Malaysia

国 籍

マレーシア



## プロフィール

ロンドンに生まれたウルク・アジズ氏は、英領マラヤで初・中等教育を受け、シンガポールのラッフルズ・カレッジ、マラヤ大学で経済学を修了。その間、第二次大戦中には日本に留学。1952年から同大の講師となり、1961年にはマレー人として最初の教授に任ぜられ、経済学科長、経済・行政学部長を歴任。1968年には、これもマレーシア人として建学後初めての学長（正式には副総長で、総長は当時のラーマン首相）となり、高等教育のマレー語化政策や日本研究科設立、アジア諸国との学術交流などを推進、20年にわたってマラヤ大学のみならず、マレーシアひいてはアセアンの教育、学術の全般的な発展の先頭に立って尽力してきた。

独立後まもないマレーシアにおいて根本的な問題であった貧困を経済学の面から取り上げ、貧困経済研究の先駆をなしたアジズ氏は、農村開発、農業と土地制度などさまざまな分野に関する著作を発表、なかでも『マラヤにおけるエステート（大規模農園）細分化：1951-60』は、脱植民地化過程のなかでの実証的なデータの収集に基づいた労作として高く評価されている。マレーシア経済学会の設立に携わり、その会長を務めるなど、60年代以降のマレーシア経済学界を常に先導するとともに、その合理的、人道的アプローチに基づいて、協同組合運動、イスラム巡礼基金を始めとする数多くのプロジェクトを生み出し、実践的な経済学者として、単なるアカデミズムの域を越えて多方面で業績をあげている。学界だけへのインパクトにとどまらず、言語政策、産業政策、高等教育、人材開発、運輸など社会に密着した分野についても多くの提言を行う同氏は、アジア極東経済委員会、ユネスコ、国連食糧農業機構等、国際機関での要職も数多く歴任、現在も幅広い活躍を続けて、アジア諸国独自の発展に貢献している。

### 主な著作

『マレー経済における事実と誤謬』シンガポール、1957

『経済計画と貧困』シンガポール、1959

『クラン住宅供給調査』（共著）1962 『マラヤにおけるエステート細分化：1951-60』1962

『時の砂浜の足跡』1975 『協同組合の原理』1980

『マレーシアにおける高等教育と雇用』（共編）1987

『マレーシアにおける大学教育と雇用』パリ、1987

（出版地のないものはクアラルンプールにて出版）

## 贈賞理由

ウルク・A・アジズ氏は、マレーシアを代表する経済学者である。同氏が多岐にわたる領域において、マレーシアの実証的経済研究に上げた優れた業績は、余人の追随を許さない。特に、植民地時代の遺産である大農園（エステート）の独立後の細分化という、独立国の経済政策において極めて重要な経済過程を実証的に取り上げたことは特筆されるべきである。また、同氏は、単に経済の理論的な問題ではなく、マレーシアの民族構成という国の存立にも深く関わる貧困の問題に、経済学者として正面から取り組んできた。農村・農業開発、土地制度などの領域におけるその先駆的な研究は、現在もそれぞれの研究のモデルとみなされている。

アジズ氏の優れた研究業績に裏打ちされた教育や人材養成への貢献にも大きなものがある。大学などの教育・研究機関におけるマレー語化政策を推し進めるとともに、マレーシア経済学会の創設者の一人として学界を常に先導する役目を果たしてきた。マレー人として最初の教授、マレーシア人として初めてのマラヤ大学学長、ただ一人のロイヤル・プロフェッサーという栄誉に輝いているのも当然のことといえるであろう。

さらに、アジズ氏は、アセアン、東南アジア、アジア諸国との積極的な文化交流の流れを作り上げていくことに多大な努力を注いできた。東南アジア高等教育協会の会長を務め、アセアン大学設立を積極的に提唱するなど、国際的にもリーダーシップを発揮し、同地域における知的リーダーとしての評価も高い。また日本との縁も深く、日本との学術交流における尽力は、良く知られている。同氏は現在も、マレーシア協同組合連合会の会長を務め、実践的な経済学者として、今なお活発な活動を続けている。

このようにウルク・A・アジズ氏の研究軌跡と幅広い活躍は、アジア諸国の学術、教育の発展に大きく貢献するものであり、まさに「福岡アジア文化賞－学術研究賞・国際部門」に相応しい業績といえる。

学術研究賞・国内部門

ACADEMIC PRIZE: DOMESTIC

氏 名  
かわき た じろう  
川喜田 二郎

Name: **Jiro KAWAKITA**

生年月日  
1920年5月11日 (73歳)

Date of Birth: **May 11, 1920 (Age: 73)**

国 籍  
日 本

Citizenship: **Japan**





## プロフィール

三重県津市に生まれ、京都に育った川喜田二郎氏は、植物採集をきっかけに自然探求への関心を深め、中学から大学を通して山岳部員としても活躍した。京都帝国大学では地理学を専攻するかたわら、今西錦司らの指導のもとにボナベ島や大シアンリン山脈を学術探検し、多大な学際的刺激を受けた。大学卒業後の召集による戦争体験は、世界平和への貢献の必要を痛感させ、戦後の氏の指針となった。1953年第一次マナスル登山隊に科学班の一員として参加。その英文調査報告書『ネパールヒマラヤにおける民族地理学的諸観察』（1957年）は今なお第一級の研究資料として評価される。以後もネパールに関する研究調査活動を精力的に進める一方、国内では大学紛争を機に東京工業大学を辞職して「移動大学」を設立し、野外調査で自ら培った理念と方法論の実践につとめた。その後、筑波大学・中部大学で後進を育て、現在は川喜田研究所理事長として多彩な研究・実践活動を続けている。

川喜田氏は、独自の民族地理学を構築した。それは、主客一如の立場から「混沌をして語らしめよ」という徹底した現場からの発想に、方法論の核を据えている。同氏は、そこから野外科学の方法論を体系化しただけでなく、さらにそれを「KJ法」という問題解決の独創的な方法論へと高めていった。今日、「KJ法」を活用する企業や研究機関も多い。

また現場でのニーズの発掘に基づく簡易水道の建設をはじめ、日本とネパールとの交流にも尽力し、この面での功績も大きい。これは、実践的ヒューマニストとしての氏の一面を物語る。

### 主な著作

*Ethno-Geographical Observations on the Nepal Himalaya*, 京都, 1957

「ネパール・ヒマラヤの生態学」(『地理学評論』30-9) 1957

『ネパール王国探検記』1957 『鳥葬の国』1960 『野外科学の方法』1973

「中部ネパールヒマラヤにおける諸文化の垂直構造」(『季刊人類学』8-1) 京都, 1977

『KJ法』1986 『素朴と文明』1987 『ヒマラヤ・チベット・日本』1988

『国際技術協力の哲学を求めて』(編著)名古屋, 1989

(出版地のないものは東京にて出版)

## 贈賞理由

川喜田二郎氏は、日本における民族地理学、また、ネパール研究の第一人者である。同氏は、学生時代の東アジア・太平洋地域での探検調査を踏まえて、気候区調査の研究から学究生活のスタートを切った。その過程で到達した温量指数・乾湿指数の概念は、植生や農業の分布を説明するにあたって、同時期にアメリカで考案された指数よりも単純でありながら説明力の優れたものであった。このように同氏の関心は、当初より、人間の営為を地域の生態条件と関連づけて説明する点に置かれてきた。

この立場は、1953年にヒマラヤ地域を現地調査する機会を得て、一挙に開花する。このとき、川喜田氏は、生涯のフィールドとなるネパールさらにはチベット人と出会う。その調査報告書は総計455ページにもおよぶ大部なもので、外国地域を対象とする日本人による初の本格的な英文調査報告書であった。その中で、同氏は、ネパールヒマラヤの民族・文化・宗教・生業・生態を分析的かつ総合的に捉え、多くの新たな知見を提示した。同時にベストセラーともなった『ネパール王国探検記』や『鳥葬の国』を刊行して、当時、日本人にとってなお知られざる秘境であったネパールやチベット人社会の実相を、のびやかな文体で紹介している。高い水準の学術的貢献をなすだけでなく、その内容を平易な言葉で社会に還元して異文化理解に資するという同氏の姿勢は、このときに確立した。

以後、川喜田氏は、この姿勢を堅持しつつ、ネパールの民族地理学的研究を体系化し、わが国ネパール学の開拓者にして第一級の現役研究者であり続けている。しかも書齋の学者ではなく、現場の混沌との会話の中に発想の源泉を求めるといふ、野外の思索者かつ実践者とも呼ぶべき風格を維持し続けている。思索者の側面は、野外科学からKJ法へと至る問題解決の方法論の確立をうみだし、また実践者の側面は、新たな視座からのネパールとの技術協力の推進となって結実した。

このように、川喜田二郎氏の民族地理学またネパール研究における功績は、学術的貢献だけに止まらず、その枠を越えた広がりを持つものであり、まさに「福岡アジア文化賞－学術研究賞・国内部門」に相応しい業績といえる。

芸術・文化賞

ARTS AND CULTURE PRIZE

氏 名

Name: **NAMJILYN Norovbanzad**

ナムジリン・ノロバンザト

生年月日

Date of Birth: **November 20, 1931 (Age: 61)**

1931年11月20日 (61歳)

Citizenship: **Mongolia**

国 籍

モンゴル国



## プロフィール

ドント・ゴビ県に生まれたノロバンザト氏は、遊牧民の家庭で民謡を聞きながら育った。1957年にモスクワで開かれた第6回世界青年音楽祭の民族芸術コンクールにおいてオルティン・ドーを歌い金賞を受賞、国立民族歌舞団歌手としてデビューした。その後、モンゴル国内のみならず、東欧各国を始め、スイス、イタリア、中国などで公演活動を続け、功労歌手、人民芸術家として表彰を受ける外、国内最大の榮譽であるモンゴル国家賞など多くの賞を受賞、現在、国立民族歌舞団顧問、モンゴル国立芸術大学主任教授、モンゴル国家賞委員会委員、モンゴル・オルティン・ドー協会会長などの要職にあって後進の育成に努めるとともに世界各国での演奏を精力的に続けている。

モンゴル古代から続く伝統音楽の一つであるオルティン・ドー（長い歌の意）は、独特の唱法と歌手の創意工夫にまかされた装飾音の多用を特徴とする。同氏は、幅広い声域と声量のうゑに精緻な歌唱技術と豊かな表現力を合せ持ち、オルティン・ドーの美を遺憾なく歌い上げている。モンゴル最高のオルティン・ドー歌手であるだけでなく、アジア有数の声楽家でもある。

ノロバンザト氏は、日本国内においても多くの公演歴があり、その300曲を超える幅広いレパートリーの中には、日本の民謡、馬子唄なども含まれている。

### 代表曲

「オヨハン・ザンブーテビーン・ナラン（果てしなく照らす太陽）」

「ゼールゲネティーン・シル（ゼールゲネテの平原）」

「セルーン・サイハン・ハンガイ（涼しい山地）」

「ウリハン・ホンゴル・サリヒ（暖かく優しい風）」

「ヘルレンギーン・バルヤー（ヘルレン川の姿）」

「バヤン・モンゴル（豊かなモンゴル）」

### 公演フィルム

「芸術舞台で」1961 「人生のこだま」1965 「人民歌手」1975

「オルティン・ドーの女王」1991 「果てしなく照らす太陽」1991

## 贈賞理由

ノロバンザト氏は、モンゴルの伝統的民謡オルティン・ドーの第一人者であり、アジア有数の歌手である。

モンゴルに古くから伝承される民謡の代表的な形式であるオルティン・ドーは、自由に形成されるリズムと歌手の創造性に委ねられた豊かな旋律を特徴としている。モンゴルの伝統的な遊牧生活の中で培われてきた民謡文化は、その担い手である歌手に豊かな声量と精緻な歌唱技法、さらに美しく情感溢れる優れた表現力を要求してきた。モンゴルの自然、生活、人生などさまざまなテーマを持ち、悠久な歴史を経て歌い継がれたオルティン・ドーは、その歌手としての要件を十分に備えたノロバンザト氏によって世界により広く紹介されることとなったのである。

モンゴル国ドント・ゴビ県の遊牧民の家庭に育ったノロバンザト氏は、幼い頃から伝統的な民謡に囲まれて自らも歌の才能を育てていった。1957年、モスクワで開かれた第6回世界青年音楽祭の民族芸術コンクールにおいて金賞に輝いた同氏の才能は一躍、脚光を浴びることとなる。これを契機にモンゴル国立民族歌舞団の歌手としてデビューした同氏は、以来、モンゴル国内はもとより、東欧諸国をはじめ、スイス、イタリア、中国など世界各地での演奏活動を積極的に展開し、世界中の聴衆の心に深い感銘を与えてきたのである。その優れた歌唱に対しては、1961年の功労歌手の表彰をはじめ、1979年にモンゴル人民芸術家賞、1984年にはモンゴル国家賞が与えられるとともに、アジア有数の声楽家として国際的にも高い評価を受けている。また、日本にも招聘され演奏する機会も回を重ね、追分などとも共通性を指摘されているオルティン・ドーの愛好者を多く生むに至っている。

ノロバンザト氏は、現在も、国立民族歌舞団顧問、モンゴル・オルティン・ドー協会会長などの要職にあって、後進の育成、モンゴル芸術文化の発展につとめている。

このように、ナムジリン・ノロバンザト氏の功績は、モンゴルの伝統音楽の歌唱を通じてアジア固有の音楽文化の継承・発展に大きく貢献したものであり、まさしく「福岡アジア文化賞－芸術・文化賞」に相応しい業績といえる。

## 公式スケジュール

### 授 賞 式

日 時：9月3日（金）14：00～15：30

場 所：福岡サンパレス

参加者：約700名

### 記 者 会 見

日 時：9月3日（金）16：00～16：40

場 所：福岡サンパレス パレスルーム A

※受賞者による記者会見

### 祝 賀 会

日 時：9月3日（金）18：00～19：30

場 所：ホテルニューオータニ博多4階 鶴の間

参加者：約400名

※受賞者夫妻、在日アジア各国大使夫妻、市民及び留学生のほか  
関係者の参加による祝賀会

### 市長表敬訪問

日 時：9月4日（土）13：00～13：30

場 所：福岡市役所特別応接室

※受賞者夫妻による市長表敬訪問

### 記念講演会

日 時：9月4日（土）14：00～16：00

場 所：福岡市役所15階 講堂

参加者：約600名

※受賞者による記念講演会

## 授賞式

日 時：9月3日（金） 午後2時～3時30分

場 所：福岡サンパレス

1993年（第4回）福岡アジア文化賞授賞式は、福岡サンパレスで行われました。

第4回の受賞者は、大賞が費孝通氏（中華人民共和国）、学術研究賞・国際部門がウング・A・アジズ氏（マレーシア）、学術研究賞・国内部門が川喜田二郎氏（日本）、芸術・文化賞がナムジリン・ノロバンザト氏（モンゴル国）の4名でした。

当日は、戦後最大級の台風13号が接近しつつあり、市内の交通手段が機能を停止するという状況にもかかわらず、在日アジア各国大使御夫妻、留学生及び学術・教育・芸術・文化関係者、市民等約700名の参加を得て開催され、受賞者の名誉を称えました。

また、祝曲として、芝祐靖氏による龍笛演奏が行われたほか、芸術・文化賞受賞者のナムジリン・ノロバンザト氏によるモンゴル民謡オルティン・ドーの歌唱が披露され、授賞式を盛り上げました。

## PRIZE PRESENTATION CEREMONY

Date: Friday, September 3, 1993

2:00 - 3:30 p.m.

Place: Fukuoka Sun Palace

The Prize Presentation Ceremony of the 4th Fukuoka Asian Cultural Prizes 1993 was held at Fukuoka Sun Palace.

The four recipients were: Professor Fei Xiatong of the People's Republic of China for the Grand Prize, Royal Professor Ungku A. Aziz of Malaysia for the International Category of the Academic Prizes, Professor Jiro Kawakita for the Domestic Category of the Academic Prizes and Ms. Namjilyn Norovbanzad of Mongolia for the Arts and Culture Prize.

On that day, typhoon No. 13 of reportedly the largest ever scale since the end of World War II approached the city area. Despite the heavy traffic and other inconveniences caused by the unexpected natural phenomenon, over 700 people, including the Ambassadors of Asian countries and their spouses, exchange students in Fukuoka, other concerned parties from the fields of education, arts and culture and citizens of Fukuoka attended the Prize Presentation Ceremony and warmly welcomed the honorable recipients.

A ceremonial musical performance of the ryuteki flute was given by Mr. Sukeyasu Shiba. A special musical performance of Urtyn duu, Mongolian traditional music was also given by the Arts and Culture Prize winner, Ms. Namjilyn Norovbanzad.



1993年（第4回）福岡アジア文化賞授賞式  
The 4th Fukuoka Asian Cultural Prizes 1993 Presentation Ceremony



会場を埋めた参加者  
The ceremonial hall was filled to capacity.



## 式 次 第

開 式	14:00	
	贈賞者入場・受賞者入場	
祝 曲 演 奏	「陪臚」 <sup>ばいろ</sup> 演奏：芝 祐靖	
主催者代表挨拶	福岡市長	桑原 敬一
来 賓 挨 拶	外務省特命全権大使	遠藤 哲也
	(日朝国交正常化交渉日本政府代表及びアジア太平洋協力担当)	
来 賓 挨 拶	文化庁文化部長	福島 忠彦
選考経過報告	福岡アジア文化賞審査委員会委員長	
	前九州大学学長	高橋 良平
贈 賞 理 由	福岡アジア文化賞審査委員会副委員長	
	九州芸術工科大学学長	安藤 由典
贈 賞	福岡市長	桑原 敬一
受賞者挨拶	費 孝 通	
贈 賞 理 由	学術研究賞選考委員会副委員長	
	西南学院大学教授	大内 和臣
贈 賞	(財)よかトピア記念国際財団理事長	川合 辰雄
受賞者挨拶	ウンク・A・アジズ	
贈 賞 理 由	学術研究賞選考委員会副委員長	
	西南学院大学教授	大内 和臣
贈 賞	(財)よかトピア記念国際財団理事長	川合 辰雄
受賞者挨拶	川喜田 二郎	
贈 賞 理 由	芸術・文化賞選考委員会委員長	
	石井和紘建築研究所代表	石井 和紘
贈 賞	(財)よかトピア記念国際財団理事長	川合 辰雄
受賞者挨拶	ナムジリン・ノロゥバンザト	
特 別 歌 唱	ナムジリン・ノロゥバンザト	
閉 式	15:30	
	司会：佐々木謙介 (NHK福岡放送局チーフアナウンサー)	

桑原市長から賞状を受け取る費孝通氏  
Mr. Kuwahara, Mayor of Fukuoka, presented the diploma of honor to Professor Fei Xiaotong.



ウンク・A・アジズ氏への賞状を  
読み上げる川合理事長  
Mr. Kawai read Royal  
Professor Ungku A. Aziz  
award citation.

川合理事長から賞状を受け取る  
川喜田二郎氏  
Mr. Kawai, Chairman of the  
Yokatopia Foundation, presented  
the diploma of honor to Professor  
Jiro Kawakita.



川合理事長からナムジリン・ノロツ  
バンザト氏に賞状、メダルの贈呈  
Mr. Kawai presented the medal  
and diploma of honor to Ms.  
Namjilyn Norovbanzad.



会場で紹介される在日アジア各国大使  
Ambassadors of Asian countries were introduced to the audience.



授賞式のフィナーレ アジア各国大使御夫妻もステージに上がられ、受賞者を称えられた。  
The Prize Presentation Ceremony Finale. On the stage, the Ambassadors of Asian countries and their spouses praised the recipients.

## 受賞者挨拶



費 孝 通

私は謹んで福岡アジア文化賞をお受けします。また、今回賜りました名誉に対して心より感謝を申し上げます。私は、これは過去において私の学術研究がアジア文化に貢献したことに対する、福岡市民の皆さんの励ましであると認識しております。同時に、さらに重要なことは、これは中日文化交流を促進するための具体的な行動であるということです。

中日両国は歴史的に見て悠久なる交流関係をもち、両国の人民はこういった文化の発展を相互に促進する貴重な往来をずっと重視してきました。我々は、中日両国が子々孫々にわたって友好的に共存していくべきだという先人たちの遺訓を誠実に守らなければなりません。私は、この賞を受賞した喜びと共に、来る21世紀において、アジア各国人民の努力と協力により、我々のアジア文化が全世界、全人類の安定、団結そして繁栄に対してより大きな貢献をするように、心からお祈り申し上げます。

## 受賞者挨拶



ウंक・A・アジズ

今日この日のことは、私の生涯で最も幸福な一日として記憶されていくことでしょう。心より、福岡市民そして福岡アジア文化賞委員会の皆様に対し、1993年（第4回）福岡アジア文化賞学術研究賞・国際部門をお贈り下さいましたことに深く感謝いたします。今日のこの出来事を生涯、宝のように大事にしたいと存じます。思えば、私の人生の転機のひとつは、常に日本と関わっていたようです。

大学時代、私は日本で教育を受けました。青年時代の私の世界観は日本の文化や歴史の影響を深く受けていました。学者となつてからは、日本人の学者・知識人の方々と暖かい交流を持つことができました。大学学長としての私は、多くの日本の大学の学長・総長の方々、さらには文部省職員の方々の助言やご協力に大変助けられました。また、マレーシア協同組合連合会会長として、日本の農業協同組合・消費者組合運動の指導者の方々と協力関係からも恩恵を受けました。そしてマレーシアの協同組合の分野の一員として、日本やマレーシアに住む日本人企業家の方々と友好的で有益な関係を保っています。

確かに、戦争が勃発した時、私は生死を分ける現実を意識するようになりました。それは、1941年12月8日の早朝のことで、その時私はシンガポールの大学に在学していました。それから一年もしないうちに、私は門司に到着し、早稲田大学で経済学を学び始めていました。私は日本の歴史に強い興味を抱き、数世紀にわたる英国の植民地支配の搾取にあえぐ祖国の人々にとって、学ぶべきところがあると感じました。過去半世紀のあいだ、日本を度々訪れては触れ、また世界各地で紹介されている数多くの優れた日本芸術を見、私は日本文化の様々な側面を愛するようになりました。そして、1989年12月、光栄にも、天皇陛下より勲一等瑞宝章を賜りました。

衷心よりー 日本語で「ココロとココロと」、あるいはマレー語で「ダリ ハティ ク ハティ」ー 感謝の意を表し、次のマレー語のパントゥーン（訳注：マレー詩の詩形。韻を踏む四行詩）を贈りたいと思います。

Pisang emas dibawa belayar,  
Masak sebiji di atas peti;  
Hutang emas boleh dibayar,  
Hutang budi dibawa mati.

これを訳すと次のような意味になります。

黄金のバナナが航海に出て、  
一本が箱の上で熟れる。  
金の借りは返せるが、  
親切への借りは一生かけても返せるものではない。

ありがとうございました。

## 受賞者挨拶



川喜田 二郎

全く思いがけない受賞のお知らせを受け、私は非常に嬉しく存じました。その気持ちは、さまざまの理由によるものです。

まずその対象地域がアジアであったことです。私の青春は、今に至るまでそのアジアという舞台と結びついていました。それで私はそのアジアを愛しています。更に、福岡で頂くことを嬉しく思うものです。この西日本の玄関口は、中国を初め、輝かしい大陸の文明を受け入れてきました。しかしまた南海の荒波を越えて倭人という水界の民の文化の流れをも受け入れてきました。その彼方から私たちはまた、仏教を含むヒンズー文明や西アジアの文明を、そうして後にはヨーロッパの文明を吸収してきたのです。

福岡はこのように大陸の文明と大洋の文明とを仲立ちしてきた場所です。そうして私の血潮の中にも、幾分海賊の流れが入っているかもしれません。その開放的な生命力を、私はむしろ誇らしく自認するものです。

更に「文化」によって賞を頂くことを、喜んでおります。政治や経済も、むしろ文化というもう一次元高い見地から考え直してみることに、そういう時代に今われわれは立っているのだと思います。

この名誉ある賞の今までの受賞者が、すばらしい実績に立つ方がたであることを知り、私はこの受賞をますます名誉なものとして、御礼申しあげたいと存じます。

## 受賞者挨拶



ナムジリン・ノロバンザト

尊敬する福岡市長様

尊敬する福岡アジア文化賞委員会の皆様

尊敬するご来場の皆様

モンゴル国の歌手である私に、1993年（第4回）福岡アジア文化賞を授与されたことに心から感謝いたします。私がこの福岡アジア文化賞を頂いたのは、私の国モンゴルの芸術文化を高く評価され、敬意を払われていることの表れだと存じます。

アジア諸民族の文化交流や相互理解を発展させる上で、この福岡アジア文化賞は大きな意義を持っています。広大なアジア大陸の文明は、お互いの相違もありますが、同じアジアという共通性においてヨーロッパの文明とは異なっています。アジア諸民族には風俗習慣や宗教、文字の点で似ている、あるいは同じことがたくさんあります。伝統的なアジアの文明はお互いに大きな影響を与えてきました。この影響の一つの表れは、東洋の音楽や絵画、建築、民族衣装などにおける民族性がお互いに似ていることだと思います。

モンゴルと日本は昔から関係を持っていました。この関係は最近ますます深くなっています。科学文化とその他の交流は広がり、政府レベルの代表団はお互いに訪問し、学者、留学生、観光客の交流または両国間の貿易はだんだん広がっています。

日本の音楽はモンゴルで、モンゴルの音楽は日本で聞かれるようになりました。私が美しい国、日本に来たのは今回で8回目です。日本の多くの都市を訪問し、モンゴル民族の歌を多くの日本人の耳に届け、多くの友人ができたことを心から嬉しく思います。また、日本民謡を歌えるように現在、勉強しているところです。

日本は科学文化と生産技術の発展で世界でもトップクラスの経済大国だということは、モンゴルでもよく知られています。日本政府と日本国民が我が国の経済と文化を発展させる上でいつも協力して下さっていることに、我々モンゴル国民は非常に満足しています。日本の多くの学者、研究者がモンゴルの歴史、文明の記念物や現代モンゴルの経済、文化を研究しています。両国関係がこれからもますます発展することを信じています。

アジア諸民族が平和的かつ友好的に共存していくようにお祈りいたします。

尊敬する皆様

福岡アジア文化賞を頂きましたことに、重ねて、心から感謝いたします。ありがとうございました。

## 祝曲演奏

授賞式の祝曲として、8世紀初めに渡来した中国・唐楽系の横笛「龍笛」による「陪臚」が演奏され、授賞式の雰囲気盛り上げました。

演奏者 芝 祐靖

1935年、東京生まれ。宮内庁楽部楽生科に入学、横笛、左舞、琵琶などを修め、1955年に卒業。同庁楽師（総理府技官）として主に横笛で活動。古典雅楽の演奏のほか、現代雅楽、現代邦楽の作曲、演奏を行い、雅楽廃絶曲の復興も手懸ける。1984年、宮内庁を退官し、横笛演奏を中心とした活動を始める。また、国立劇場の正倉院楽器復元（伶楽運動）に参加し、敦煌音楽などを復曲する。パリの秋音楽祭、ペルーシア現代音楽祭、ドナウエッセンゲン現代音楽祭などに参加。昭和62年度芸術選奨文部大臣賞「古典芸術部門」受賞。現在、国立音楽大学客員教授、東京芸術大学講師を務める。



### CEREMONIAL MUSIC PERFORMANCE

In the ceremonial musical performance, Mr. Sukeyasu Shiba performed a piece called, “*Bairo*,” with his ryuteki flute. Ryuteki flute is a musical instrument which was brought from China in the eighth century.

#### Sukeyasu Shiba/Ryuteki flute player

Born 1935 in Tokyo. Enrolled at the Faculty of Music at the Imperial Household Agency and studied the Japanese flute, *samai* dance and *biwa* or Japanese lute. Since his graduation in 1955, Mr. Shiba has served as the Agency’s musician (a technical officer of the Prime Minister’s Office), mainly playing the flute. Besides the Japanese court music performances, he composes and plays modern court music and modern *hogaku* music. *Hogaku* is a traditional Japanese music. He has also worked on reviving extinct court music pieces. After retiring from the Imperial Household Agency in 1984, he began to perform as a free-lance flute player. Mr. Shiba participated in the National Theater’s movement to restore *shosoin* musical instruments. He also reconstructed the music pieces from Dunhuang, China. Included among the many music festivals he has participated in are: the Autumn Music Festival in Paris, Perugia Modern Music Festival in Italy and Donaueschingen Modern Music Festival in Germany. In 1987, Mr. Shiba was honored the Art Award, in the Category of Classical Art, by the Japanese Minister of Education. Presently, he serves as the Visiting Professor of Kunitachi Music College and Lecturer of Tokyo National University of Fine Arts and Music.



## 特別歌唱（オルティン・ドー）

モンゴル馬頭琴交響楽団団長ツェン  
ディーン・バトチョロン氏の馬頭琴伴奏で  
芸術・文化賞受賞者ナムジリン・ノロウバ  
ンザト氏のオルティン・ドーが披露されま  
した。

### オルティン・ドー

オルティン・ドー（長い歌の意）は、モ  
ンゴルの伝統的な遊牧生活の中で生まれた  
民族音楽のひとつで、無伴奏あるいは馬頭  
琴（モリン・ホール）やリンベ（横笛）の  
伴奏で歌われます。



### 馬頭琴（モリン・ホール）

モンゴルの民族楽器。胡弓の一種。高さ 25～35cm、幅 17～27cm の木製の台形の枠の表裏に羊皮または馬皮を張り、これに長さ約 1m の長いさおを立て、さおの上部の左右に 2 個の  
転手テンジユ（弦を巻きつける部分）を設け、これに馬の尻尾の毛を束ねた（撚っていない）2 本の弦を張った楽器。さおの上部が馬頭の形であるため、この名があります。

## SPECIAL MUSICAL PERFORMANCE (Urtyn duu)

A special musical performance of Urtyn duu by the winner of the Arts and Culture Prize, Ms. Namjilyn Norovbanzad was given at the Prize Presentation Ceremony. Mr. Tsendiin Battchuluun, a morin khuur player and Head of the Mongolia Symphonic Orchestra accompanied Ms. Namjilyn.

### Urtyn duu

The Mongolian folk music of Urtyn duu (long song) forms part of the traditional nomadic culture of Mongolia. It is performed as a solo or accompanied by a morin khuur (two-stringed lute) or a limbe (flute).

### Morin khuur

Morin khuur is a Mongolian musical instrument. This two-stringed bowed lute is made up of a wooden trapezoid-shaped frame, 25 to 35 cm long and 17 to 27 cm wide. The front and back to the body of the instrument are covered with sheep or horse hide. A one-meter long fingerboard is attached to the body.

Two strings made from untwined horse hair are connected to two pegs located on the right and left sides. The top end of the fingerboard is shaped like a horse's head, giving the instrument its name.

## 記念講演会

日時：9月4日（土） 午後2時～4時

場所：福岡市役所 15階講堂

1993年（第4回）福岡アジア文化賞記念講演会は、授賞式の翌日、福岡市役所の15階講堂で行われました。

記念講演会は、受賞者と市民が身近に触れ合うことができる、貴重な機会なので、広く、市政だより、テレビ、ラジオ、ポスター等で参加者の公募を行い、当日は、約600名の参加がありました。

講演会は、日本語、英語、中国語の同時通訳付きで行われました。

### 式次第

開 会 14:00

主催者代表挨拶 福岡市長 桑原敬一

講 演 ウンク・A・アジズ

川喜田二郎

ナムジリン・ノロウバンザト

費 孝 通

閉 会 16:00



記念講演会会場  
The Commemorative Lecture Hall



会場を埋めつくした聴衆  
Over 600 people attentively listened to the Commemorative Lectures.



講演するウンク・A・アジズ氏  
Royal Professor Ungku A. Aziz presented  
his commemorative lecture.



1993年(第4回)福岡アジア文化賞  
THE 4th FUKUOKA ASIAN CULTURAL PRIZES 1993

講演する川喜田二郎氏  
Professor Jiro Kawakita elaborated on his life  
experiences.



講演するナムジリン・ノロバンザト氏  
Ms. Nomjilyn Norovbanzad gave a  
commemorative lecture.



講演する費孝通氏  
Professor Fei Xiaotong discussed his  
perception of social anthropology.

## リサイタル

日時：9月5日（日）午後3時～5時

場所：NHK福岡放送局T-1スタジオ

芸術・文化賞受賞者ナムジリン・ノロウバンザト氏の受賞を記念し、より多くの市民にモンゴルの芸術・文化に親しんでもらうため、「モンゴルの心」と銘打ったリサイタルがNHK福岡放送局で開催されました。

会場には公募による市民約300人が参加し、ノロウバンザト氏の歌とモンゴル馬頭琴交響楽団団長ツェンディーン・バトチョロン氏の馬頭琴演奏によって、モンゴルの素晴らしい音楽を堪能することができました。

この公演の様子は、後日、NHK衛星放送でも放映されました。

## RECITAL

Date: Sunday, September 5

3:00 - 5:00 p.m.

Place: T-1 Studio, NHK, Japan Broadcasting Corporation, Fukuoka

In commemoration of Ms. Namjilyn Norovbanzad's winning the Arts and Culture Prize and at the same time in order to introduce Mongolian arts and culture to the citizens of Fukuoka, a recital entitled "The Soul of Mongolia" was given at the NHK building, Japan Broadcasting Corporation, Fukuoka.

Over 300 citizens, who applied for tickets to the recital, enjoyed the superb music of Mongolia through the vocal performance of Ms. Norovbanzad and morin khuur played by Mr. Tsendiin Battchuluun, Head of the Mongolia Symphonic Orchestra.

The recital was later televised on the NHK satellite broadcast program.



リサイタル会場  
The recital hall



ナムジリン・ノロバンザト氏の歌とツェンディーン・バトチョロン氏の馬頭琴演奏  
A musical performance of Ms. Namjilyn Norovbanzad's vocal and Mr. Tsendiin Battchuluun's morin khuur.

## ワークショップ

日時：9月6日（月）午後3時～5時30分

場所：九州大学国際ホール

大賞受賞者費孝通氏の受賞を記念し、研究者の学術交流を深めるため、九州大学教育部附属比較教育文化研究施設及び九州人類学研究会の主催により、社会人類学フォーラムが九州大学国際ホールで開催されました。

会場では、地元研究者を中心に約50名が参加、『現代中国における人類学研究』をテーマに、現代中国社会における農村の変貌、中国少数民族研究の現状と課題など費氏の研究成果を中心とした講演に引き続き、座談会形式で質疑応答が行われ、活発な意見が交換されました。

## WORKSHOP

Date: Monday, September 6

3:00 - 5:30 p.m.

Place: International Hall, Kyushu University

In commemoration of the bestowment of the Grand Prize on Professor Fei Xiaotong, and at the same time in order to further deepen the scientific exchange among scholars in that field, the Forum on Social Anthropology was held by The Research Institute of Comparative Education and Culture, Faculty of Education, Kyushu University and The Kyushu Anthropological Association at the International Hall of Kyushu University.

Over 50 scholars, mainly from the Kyushu area, attended the Forum and attentively listened to Professor Fei's lecture, "Anthropological Studies in Modern China," based on his research data on subjects such as "Changes in Rural Villages in the Society of Modern China" and "The Status Quo and Problems with the Studies on China's Minority Nationals." In the discussion following the lecture, many questions were asked and opinions were exchanged.



九州大学和田光史総長を表敬訪問する費孝通氏  
 Professor Fei Xiaotong paid a courtesy visit to Professooy Koji Wada, President  
 of Kyushu University.



ワークショップ会場  
 The Workshop hall



活発な意見交換を行う参加者  
 The participants actively exchanged opinions.